

令和4年度第3回岩手県公共事業評価専門委員会

# 現地調査資料

■ 日 時

令和4年8月1日（月） 9：00～15：25

■ 内 容

令和4年度公共事業再評価対象事業に係る現地調査

■ 調査開始時刻及び調査対象事業

調査開始時刻	調査対象事業
10：55	(1) 中山間地域総合整備事業（生産基盤）市野々地区（一関市）
13：40	(2) 地域連携道路整備事業（地域密着型）一般県道北上和賀線小田中（北上市）

■ 資料一覧

資料 No. 1 現地調査行程表

資料 No. 2 現地調査箇所位置図及び説明資料

参考資料 令和4年度公共事業評価専門委員会現地調査対象事業の審議概要

## 岩手県公共事業評価専門委員会委員名簿(五十音順)

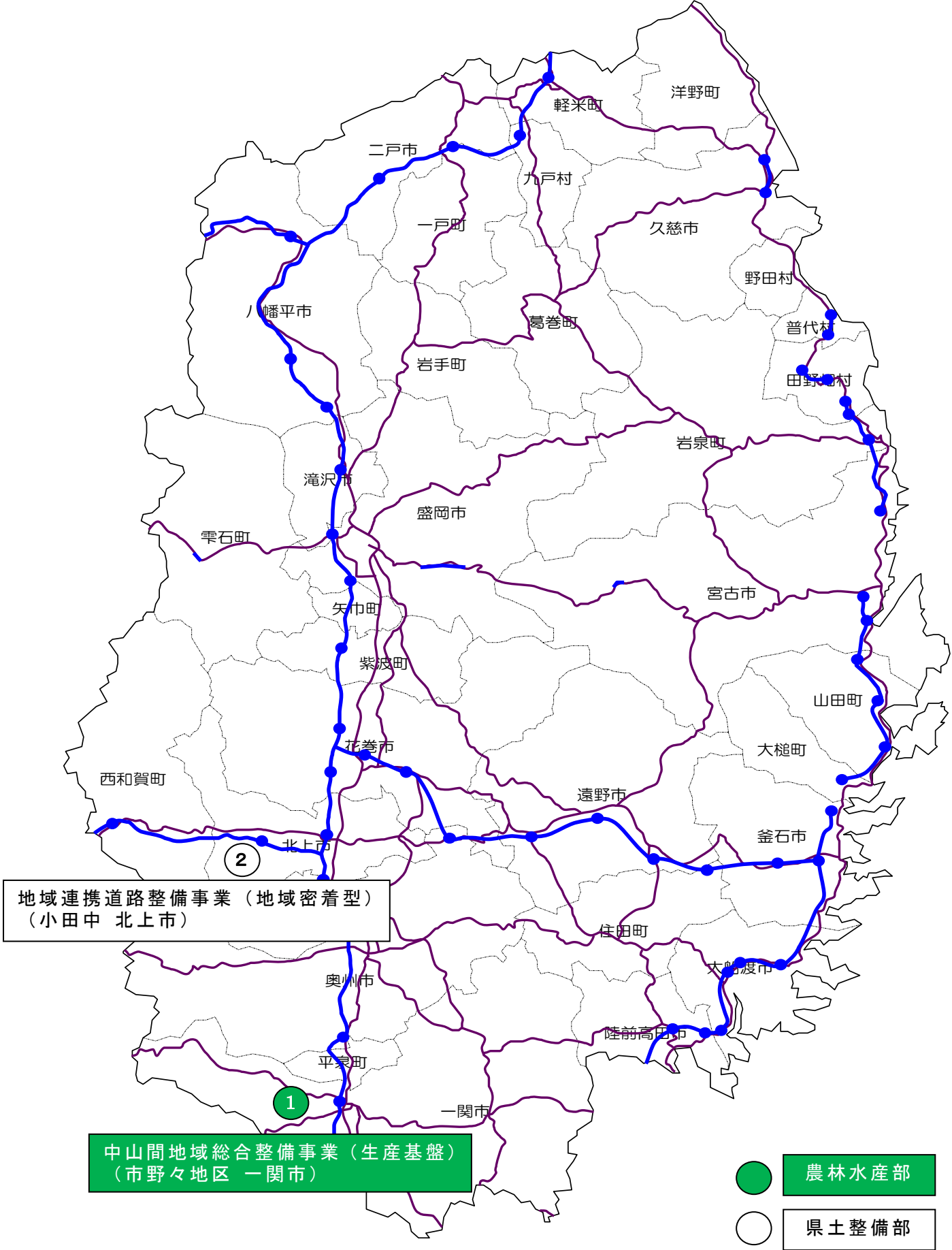
氏 名	職	専門分野	備 考
石 川 奈 緒	岩手大学工学部 准教授	土木環境	欠席
伊 藤 幸 男	岩手大学農学部 准教授	林政学	
小笠原 敏 記	岩手大学工学部 教授	海岸工学	専門委員長
清 水 真 弘	堤研一事務所 公認会計士・税理士	企業会計	欠席
谷 本 真 佑	岩手大学工学部 助教	交通工学	
武 藤 由 子	岩手大学農学部 准教授	農業土木	副専門委員長

(敬称略)





令和4年度第3回公共事業再評価専門委員会現地調査対象地区 位置図

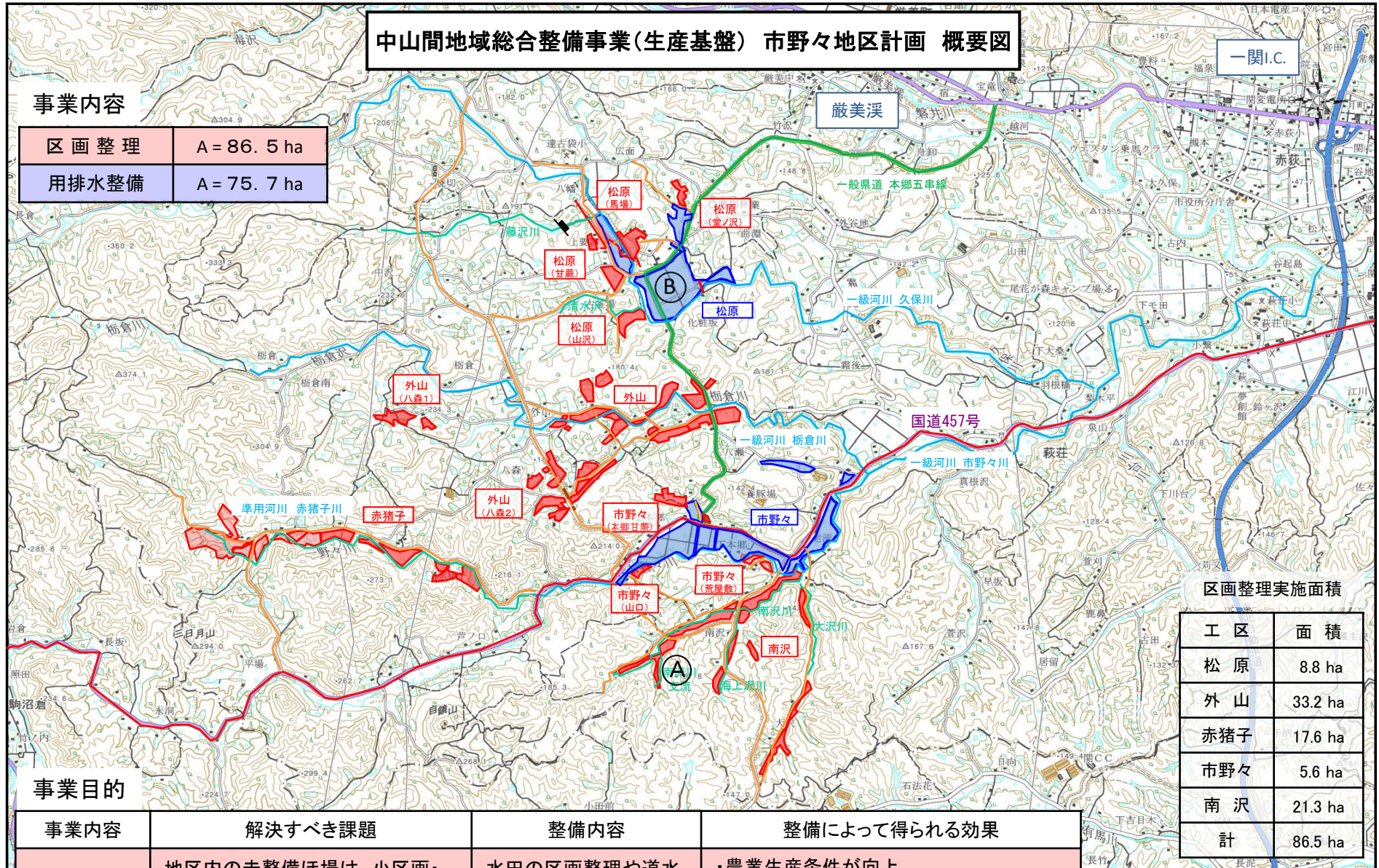




# 中山間地域総合整備事業(生産基盤) 市野々地区計画 概要図

## 事業内容

区画整理	A = 86.5 ha
用排水整備	A = 75.7 ha



## 区画整理実施面積

工区	面積
松原	8.8 ha
外山	33.2 ha
赤猪子	17.6 ha
市野々	5.6 ha
南沢	21.3 ha
計	86.5 ha

## 事業目的

事業内容	解決すべき課題	整備内容	整備によって得られる効果
区画整理	地区内の未整備ほ場は、小区画・不整形で農道・水路も不備	水田の区画整理や道水路の一体的な整備	・農業生産条件が向上 ・農地の利用集積が促進され生産コスト減
用排水整備	昭和50年代に整備された用・排水路の老朽化により漏水が顕著	用排水路の更新整備	・水管理や維持管理の負担が軽減

この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の02755-9の1地形図を使用したものである。(承認番号 平19総便、第106-22388号)

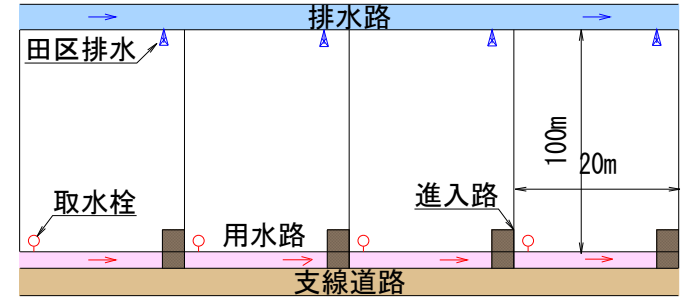




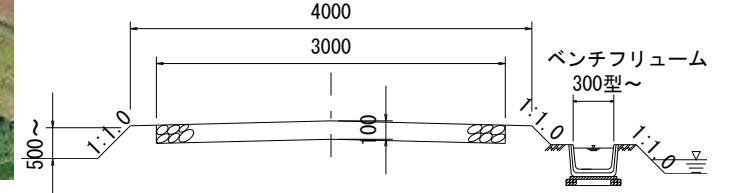
# 1 区画整理 実施状況 南沢工区



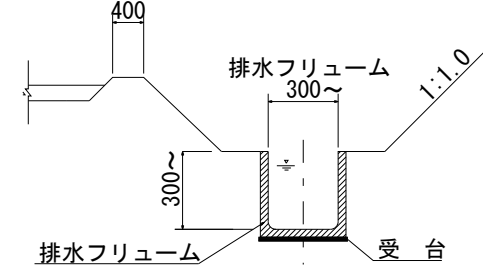
標準区画面



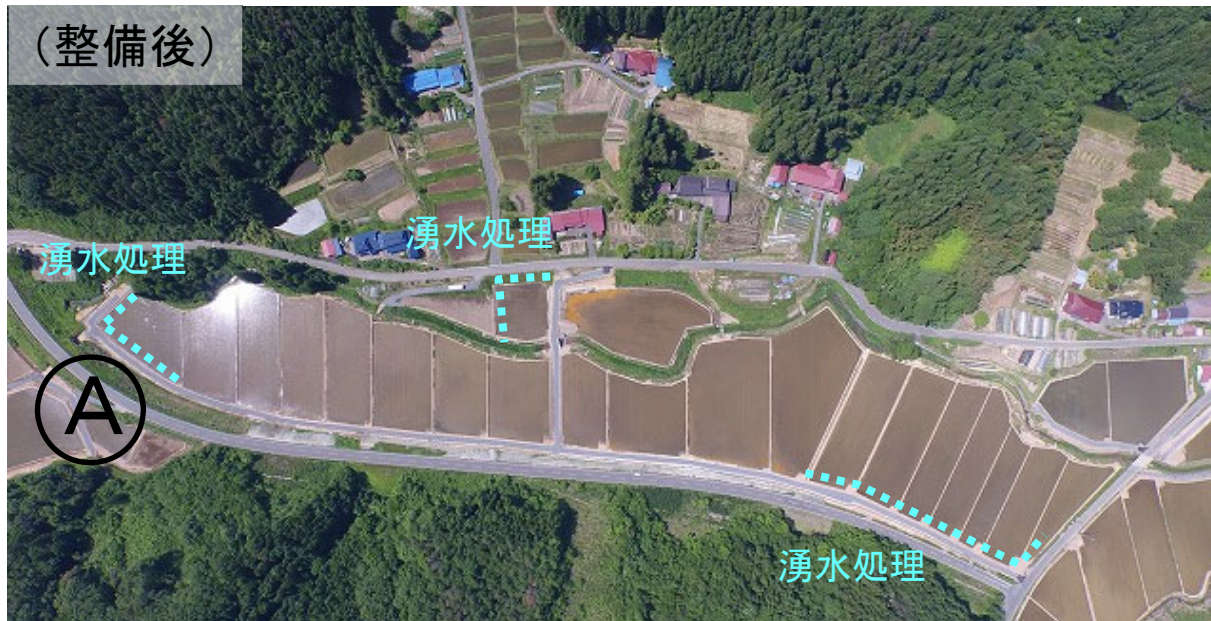
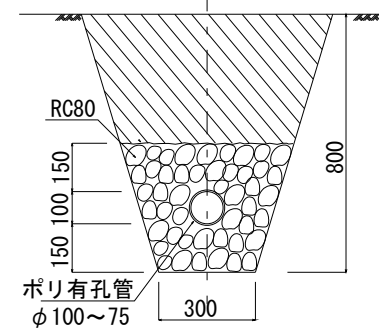
道路工・用水路工標準図



排水路工標準図

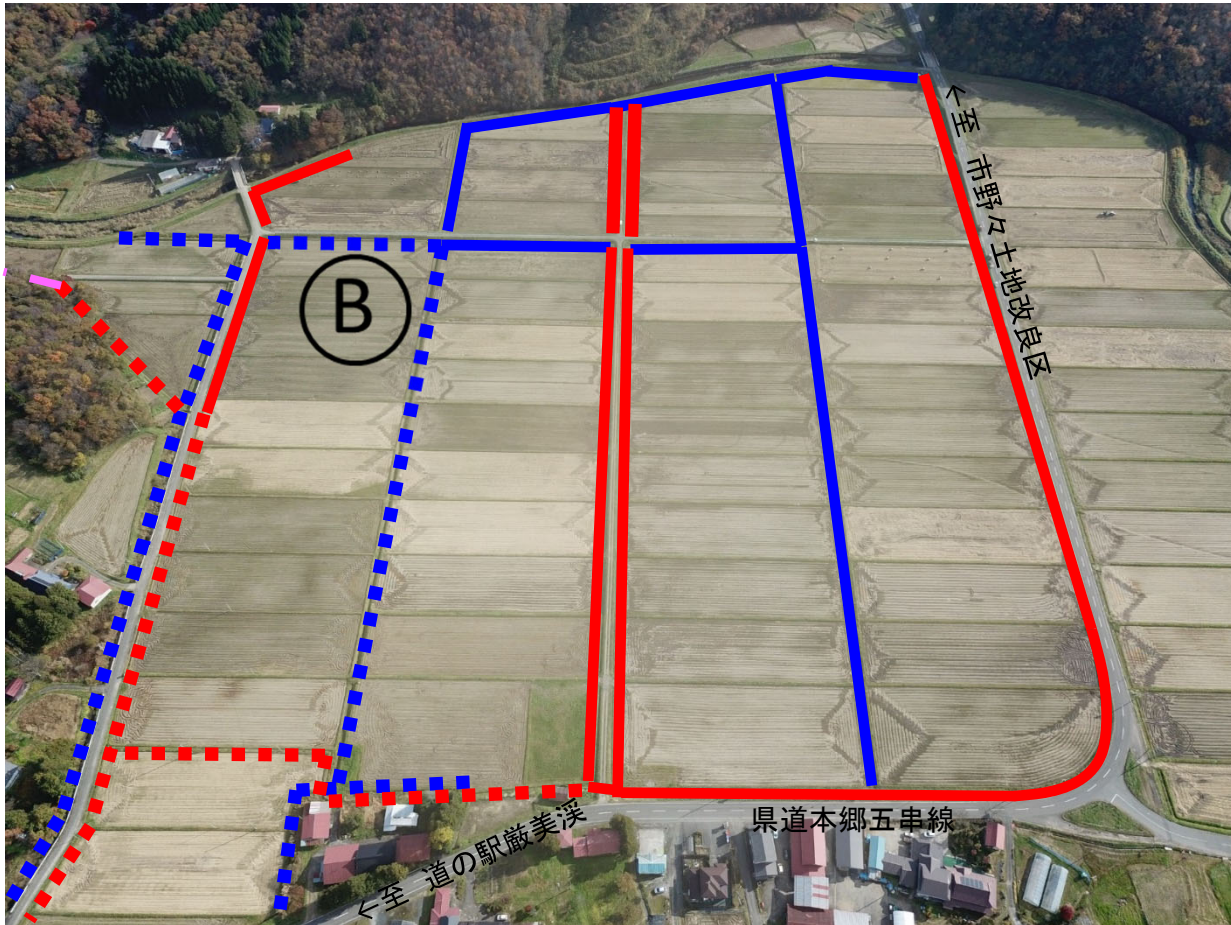


湧水処理工標準図

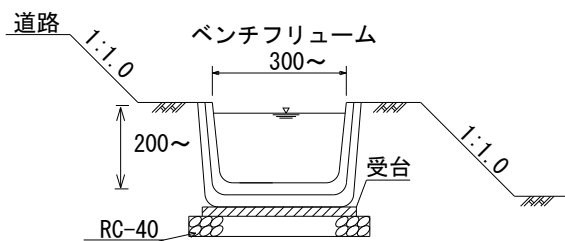




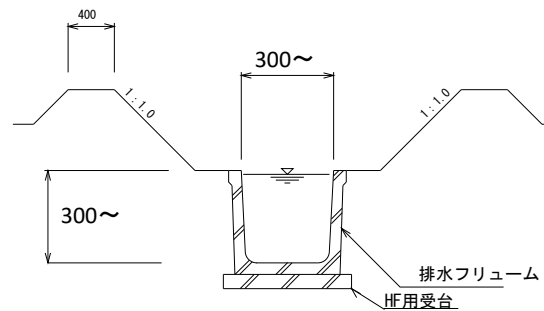
## 2 用排水整備 実施状況 松原工区



用水路標準図



排水路標準図



凡 例		
R3まで 施工済	用水路	■
	排水路	■
R4施工 予定	用水路	■ ■ ■ ■
	排水路	■ ■ ■ ■



### 3 その他 区画整理 実施状況 外山、赤猪子工区





# 公共事業再評価 第3回委員会説明資料

地域連携道路整備事業(地域密着型)  
一般県道北上和賀線 小田中

令和4年8月1日

県土整備部 道路建設課





# 1.事業概要

## (1) 事業目的

### ア 路線の位置付け

一般県道北上和賀線は、北上市相去町を起点とし、東北横断自動車道北上西インターチェンジに接続する主要地方道北上西インター線を終点とする路線であり、地域住民の通勤・通学や救急医療施設へのアクセス等の生活道路であるほか、主要幹線道路である国道107号の代替路線の役割を担う重要路線である。



※地理院タイルに旗揚げを追記して作成

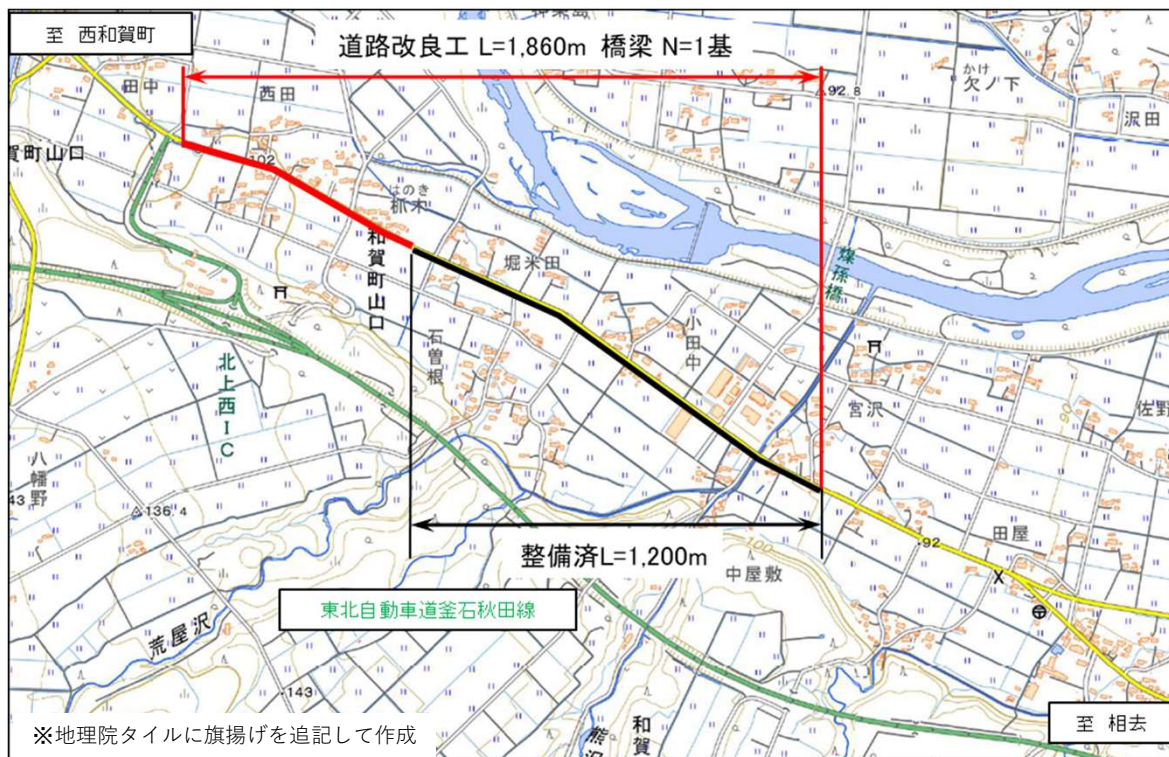






## 2.事業の進捗状況

1,860mのうち1,200mの整備が完了





## 令和4年度公共事業評価専門委員会現地調査対象事業の審議概要

### 1 中山間地域総合整備事業（生産基盤） 市野々地区（一関市）

質疑等の概要																																																									
専門委員からの質疑等	事業担当課の対応（回答）																																																								
① 区画整理施工面積が増加した理由は。また、施工面積の増加により事業費はどの程度増加したのか。	<p>【農村建設課】</p> <p>整備を進めていく途中で事業への参加を希望する方がいたため。なお、施工面積の増加により事業費は約4億1,300万円の増加となった。</p>																																																								
② 工事遅延の理由として、切土盛土や表土運搬と、岩盤出土や湧水処理の対策工では、どちらの影響が大きいのか。	<p>【農村建設課】</p> <p>事業地区が沢沿いの傾斜地であるため、切土盛土や表土運搬による影響が大きい。</p>																																																								
③ 費用便益分析の作物生産便益及び営農経費削減便益が増加した要因及びその他便益が0円から2億4,100万円となった理由は。	<p>【農村建設課】</p> <p>区画整理面積の増加に比例して、作物生産便益及び営農経費削減便益が増加しているもの。その他便益は算定マニュアルの改定に伴い、国産農作物安定供給効果という便益を算定できることとなったため、新たに計上しているもの。</p>																																																								
④ 区画整理面積が経年によりどのように増えていったのかが分かる資料を示してほしい。	<p>【農村建設課】 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">第2回専門委員会にて説明</span>（単位:ha）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>工区</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>松原</td> <td>5.9</td> <td>5.9</td> <td>9.2</td> <td>9.2</td> <td>8.9</td> <td>8.8</td> <td>2.9</td> </tr> <tr> <td>外山</td> <td>23.4</td> <td>23.4</td> <td>37.4</td> <td>36.7</td> <td>35.3</td> <td>33.2</td> <td>9.8</td> </tr> <tr> <td>赤猪子</td> <td>13.3</td> <td>18.1</td> <td>18.3</td> <td>18.3</td> <td>17.6</td> <td>17.6</td> <td>4.3</td> </tr> <tr> <td>市野々</td> <td>6.2</td> <td>6.6</td> <td>6.1</td> <td>6.1</td> <td>5.6</td> <td>5.6</td> <td>△ 0.6</td> </tr> <tr> <td>南沢</td> <td>21.1</td> <td>21.8</td> <td>21.0</td> <td>21.3</td> <td>21.3</td> <td>21.3</td> <td>0.2</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>69.9</td> <td>75.8</td> <td>92.0</td> <td>91.6</td> <td>88.7</td> <td>86.5</td> <td>16.6</td> </tr> </tbody> </table>	工区	H25	H26	H29	H30	R2	R3	増減	松原	5.9	5.9	9.2	9.2	8.9	8.8	2.9	外山	23.4	23.4	37.4	36.7	35.3	33.2	9.8	赤猪子	13.3	18.1	18.3	18.3	17.6	17.6	4.3	市野々	6.2	6.6	6.1	6.1	5.6	5.6	△ 0.6	南沢	21.1	21.8	21.0	21.3	21.3	21.3	0.2	合計	69.9	75.8	92.0	91.6	88.7	86.5	16.6
工区	H25	H26	H29	H30	R2	R3	増減																																																		
松原	5.9	5.9	9.2	9.2	8.9	8.8	2.9																																																		
外山	23.4	23.4	37.4	36.7	35.3	33.2	9.8																																																		
赤猪子	13.3	18.1	18.3	18.3	17.6	17.6	4.3																																																		
市野々	6.2	6.6	6.1	6.1	5.6	5.6	△ 0.6																																																		
南沢	21.1	21.8	21.0	21.3	21.3	21.3	0.2																																																		
合計	69.9	75.8	92.0	91.6	88.7	86.5	16.6																																																		
⑤ 事業費の自然増分について、その内訳を説明してほしい。	<p>【農村建設課】 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">第2回専門委員会にて説明</span> (単位:百万円)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>事業内容</th> <th>①価格変動</th> <th>②消費税増</th> <th>計(①+②)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>区画整理</td> <td>220</td> <td>68</td> <td>288</td> </tr> <tr> <td>農業用排水</td> <td>30</td> <td>31</td> <td>61</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>250</td> <td>99</td> <td>349</td> </tr> </tbody> </table> <p>①は労務費、材料費、機械損料等の価格変動によるもので、年度ごとに国から示される工種別の自然増率を剰事業費に乗じて算出している。 ②は消費税増分として、平成26年度（5%→8%）と令和元年度（8%→10%）を考慮している。</p>	事業内容	①価格変動	②消費税増	計(①+②)	区画整理	220	68	288	農業用排水	30	31	61	合計	250	99	349																																								
事業内容	①価格変動	②消費税増	計(①+②)																																																						
区画整理	220	68	288																																																						
農業用排水	30	31	61																																																						
合計	250	99	349																																																						
⑥ 湧水処理のための地下のポリ管は、詰まったりすることで定期的に交換が必要なものか。また、耐用年数は何年なのか。	<p>【農村建設課】</p> <p>詰まらないようにポリ管の周りを砕石で囲んでおり、耐用年数としては17年程度を見込んでいる。その後の管理については各農家に対応していく。</p>																																																								





⑦	ポリ管の直径や、砕石と土の厚さはどのくらいか。	【農村建設課】 ポリ管の直径は 75mmから 100mmである。また、湧水の位置によって異なるが、砕石が 30cmほどの厚さで、土を含む全体の厚さは概ね 80cmから 1m。
⑧	令和 7 年度までの事業であるが、今後編入区域が増えることはあるか。	【農村建設課】 換地の手続きが済んでいるのでこれ以上編入区域が増えることはない。
⑨	南沢工区は湧水の発生など工事難航箇所が多い工区であるが、最初に整備を進めたのはなぜか。	【農村建設課】 地域にある委員会の意向に従って整備する工区を決めている。

## 2 地域連携道路整備事業（地域密着型） 一般県道北上和賀線小田中（北上市）

質疑等の概要	
専門委員からの質疑等	事業担当課等の対応（回答）
①	事業地区内の大型車の交通量は。 【道路建設課】 平成 27 年の交通量センサスによると 475 台／日である。
②	将来交通量が事業着手時より 500 台／日ほど多いがその要因をどのように考えているか。 【道路建設課】 人口の増加によるものではなく、地域交通の流れに変化があったものとする。
③	当初計画時と再評価時における将来交通量の算出根拠をそれぞれ説明してほしい。 【道路建設課】 <u>第 2 回専門委員会にて説明</u> 将来交通量は、評価時点の直近における道路交通センサスの 24 時間交通量（実測値）に発生集中量の伸び率をかけて算出している。 事前評価時と再評価時において平均伸び率に大きな変化がないため、現況交通量の増加が将来交通量の増加要因であるとする。
④	配分交通量を計算した上で、整備した場合としない場合を比較し、交通ネットワークとしての便益を算出しているのか。 【道路建設課】 整備により、事業区間内で移動時間が短縮されることや走行速度が向上することなどについて、整備前と比較することで便益を算出している。その際、将来交通量は現況交通量に発生集中量の伸び率をかけて計算している。
⑤	平成 23 年には東日本大震災津波が発生するなど地域交通に変化が生じたことが予想されるが、より範囲を広げて交通量を確認してみてもどうか。 【道路建設課】 他の一般道などの交通量を確認してみたところ、交通量が 2 割減から 7 割増と、道路によって様々な変動をしている。
⑥	発生集中量の伸び率は国が示した伸び率の値を参考に広域振興圏ごとに算出されているが、局所的なところに用いてよいものなのか。 【道路建設課】 国からは「北東北」という区分で発生集中量の伸び率が示されており、県では工夫して広域振興圏ごとに算出して活用している。